具体的な取組

鯖江市･鯖江商工会議所・鯖江高校 相互連携協定の締結

鯖江高校は，以前から「鯖江市デジタルパンフレット」の作成などを通して，鯖江市と協働で活動を行ってきた。令和元年度に鯖江高校が「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の採択を受けて，これまでの体制をより強いものとするため，鯖江市，鯖江商工会議所，鯖江高校で相互連携協定を締結し，今後さらなる協力をいただくこととした。

本協定の連携項目は下記の通りである。

(1) 文化・教育・学術の振興，発展に関わる事項
(2) 人材育成に関わる事項
(3) まちづくりに関わる事項
(4) 地域産業振興に関わる事項
(5) その他，本協定の目的実現に関わる事項

具体的には，この相互連携協定により，「こんな方に授業をしてもらいたい」「こんな企業を紹介してもらいたい」となったとき，市役所や商工会議所を通じて紹介していただけることとなった。これにより，特別授業等での講師選定など，様々な場面で本事業を支える関係性を構築できた。

また，この相互連携協定の内容を充実したものとするため，毎学期末，連絡協議会を実施した（３学期末は新型コロナウイルスの影響で個別に説明で対応）。この連絡協議会は，学期ごとの進捗状況の報告，ならびに本事業を進めるうえでの助言等をいただく貴重な機会となり，次年度以降も継続・発展させていく必要がある。

（参照　資料 地域協働ニュース第１号）

１年「総合的な探求の時間」の取組

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和元年度　第１学年　総合的な探究の時間　実施報告書（抜粋）

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　普通　学科

名　　称	総合的な探究の時間	単位数	1

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
4/19	総合オリエンテーション・エンカウンター	50	一斉受講･グループ
4/26	コミュニケーションと対話	50	ペア
5/10	ナンバリングとラベリング	50	ペア
5/24	ブレインストーミングとＫＪ法	50	グループ
6/7	進路適性検査	50	個人活動
6/14	ウェビングマップ	50	グループ
6/21	フィッシュボーン	50	グループ
7/10	新聞記事を読もう	50	ペア
7/11	進路学習（２時間）	50	個人活動
7/16	メディア・リテラシー	100	ペア・グループ
7/17	情報モラル講演会（２時間）	100	一斉受講
7/19	学校祭計画（色別集会）	50	一斉活動
9/18	進路講演会	50	一斉受講
9/20	１学期の振り返り	50	個人活動
9/27	「２０年後の自分は何をしている？」	50	個人活動･グループ
10/4	新聞記事のテーマ設定	50	個人活動･グループ
10/11	保健講話	50	一斉受講
10/25	大学訪問（３時間）	50	個人活動
10/30	福井新聞社による特別授業	50	一斉受講・ペア
11/1	防犯教室	50	一斉受講
11/8	「インタビューの質問を考えよう」	50	ペア
11/15	新聞記事作成①	50	個人活動・ペア
11/22	新聞記事作成②	50	個人活動
12/6	新聞記事作成③	50	個人活動
12/13	新聞記事作成④	50	個人活動
1/10	新聞記事作成⑤	50	個人活動
1/17	新聞記事作成⑥	50	個人活動
1/30	新聞記事作成⑦	50	個人活動
2/7	進路ガイダンス（２時間）	50	一斉受講
2/14	新聞記事の読み合い	50	グループ

具体的な内容について

研究テーマ	内容
探究学習の基礎スキルの習得	次年度から，個人もしくはグループでの探究学習が本格的に始まる。それに向けて，探究学習に必要な基礎的なスキルの習得を目指した。具体的には，ブレインストーミングでアイディアの出し方，ＫＪ法やウェビングマップ，フィッシュボーンでアイディアの整理法を学習した。
新聞記事の作成	次年度から始まる探究学習の課題設定に向けて，自分の興味関心のある分野について，新聞記事を作成した。新聞記事の基本的な構造や内容について，およびインタビューの方法について，実際に記事を書いている福井新聞社の新聞記者をお呼びし，特別授業を行った。作成にあたり，インタビューを実施すること，その内容を記事にすることとした。その後，個人で新聞記事を作成し，クラス内のグループで相互評価を行った。

外部講師による活動（各教科・部活動での取組）

令和元年７月１８日（木）　吉川ナスの収穫体験

鯖江高校のクッキング部の生徒が，鯖江市役所農林政策課のご協力をいただき，生産農家さんのビニールハウスで収穫体験を行った。収穫の方法だけでなく，品種改良されていない「吉川ナス」独特の栽培の難しさなど，多くのことを学んだ。後にこの吉川ナスを使って，新しいレシピ作りに取り組んでいく。

吉川ナス･･･鯖江の伝統野菜で７月～１０月が旬。光沢のある黒紫の色をした約 300g のソフトボール大の丸ナス。栽培技術や品質の高さ，地域や出荷先等の評判，品種改良されることなく今日まで継承されてきた歴史などが高く評価され，伝統野菜としては全国初の地理的表示保護制度に登録された。

（参照　地域協働ニュース第２号）

令和元年７月３１日（水）　クッキング部が地元野菜の吉川ナスを使ったレシピを発表

収穫体験でお世話になった生産農家の方々や，鯖江市役所の方々，そして本校卒業生である鯖江市内の洋食ビストロ「シトラス」の青柳彰彦氏を招き，試食会を実施した。青柳氏から調理の指導を受けながら調理し，完成した料理を，マスコミ関係者も含め，全員で試食をした。

（参照　地域協働ニュース第２号）

令和元年８月２２日（木）　地学基礎　特別授業

２年文系の地学基礎を受講する生徒に，講師として株式会社「田中地質コンサルタント」代表取締役の田中謙次氏を招き，「鯖江の地質や地形から分かること」をテーマとして特別授業をしていただいた。この特別授業を受けて２学期の地学基礎の授業で，鯖江市が公開している「災害時サポートガイドブック」や他地域の防災ガイドなどを用いて，身近な防災に関する授業を展開し，防災に関する知識や防災に対する意識を深めていった。

（参照　地域協働ニュース第３号）

令和元年１０月９日（水）　「子どもの発達と保育」の出前授業

３年文系の「子どもの発達と保育」を受講する生徒たちに，講師として鯖江市保育・幼児教育室の森友万貴氏を招き，保育の現状について」をテーマとして出前授業をしていただいた。この特別授業を受けて「子どもの発達と保育」の授業を通して，鯖江市の保育事情に関して，資料やインターネットなどをと活用して調べ，デジタルパンフレットにまとめる活動を行った。

（参照　地域協働ニュース第５号）

令和元年１０月３０日（水）　１年生「総合的な探究の時間」特別授業

１年生「総合的な探究の時間」における新聞記事づくりのため，福井新聞社の薮内弘昌氏を招き，伝わりやすい文章の書き方やインタビューの方法などについて，講義していただいた。この特別授業を受けて，各自で新聞づくりをするために課題を考え，インタビューなどを通して探究し，記事にまとめて発表するミニ課題研究活動を展開していった。

令和元年１１月１４日（木）　音楽　特別授業

民族楽器の収集家である森眞一郎氏を招き，３年生の音楽選択者を対象に特別授業を行った。カリンバ，カホン，アンフロン，アフリカン太鼓といった，東南アジアやアフリカの伝統的な民族楽器の紹介と演奏法を指導いただいた。その後も音楽の授業でそれぞれの楽器の練習を行い，１２月８日に誠市でその成果を発表した。

（参照　地域協働ニュース第７号）

令和元年１２月８日（日）　誠市での民族音楽の発表

１１月１４日の特別授業からの流れで，鯖江市誠照寺で毎月１回開催されている蚤の市「誠市」において，３年生音楽選択の生徒が，特別授業で学んだ民族音楽の練習成果を地域の方々に発表した。

（参照　地域協働ニュース第９号）

令和元年１２月１１日（水）　音楽鑑賞講座

地域で活動する音楽家３名の方に来校していただき，１年生２組，４組の生徒を対象に音楽鑑賞講座を行った。来校いただいた講師の方は，声楽家ソプラノの天勝まゆみ氏，フルート奏者の辻好氏，ピアノ奏者の嶋﨑実紀氏の３名で，日ごろの活動を教えていただくとともに演奏を聴き，地域の芸術活動について理解を深める授業をしていただいた。

（参照　地域協働ニュース第８号）

令和２年１月２８日（火）　数学　特別授業

２年生文系の数学の授業で，福井銀行より講師として米岡慎一郎氏を招き，ローンの金利の仕組みを等比数列・等差数列を使って解説する特別授業をしていただいた。この授業によりこれまで学んできた数学が身近なところで活用されていることを理解し，数学の授業の意義を感じ取ることができたようであった。

（参照　地域協働ニュース第１０号）

運営指導委員会

運営指導委員会の構成員

氏名（敬称略）	所属
佐川　哲也	金沢大学地域創造学類長
田中　謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長
宮本　昌彦	鯖江市産業環境部長
丸山　繁喜	鯖江市中学校長会長
齋藤　多久馬	鯖江市社会福祉協議会　会長

第１回運営指導委員会

日時　　令和元年１１月１２日（火）

１３：０５～１３：５５（５限目）　公開授業（全学年の各授業）

１３：５５～１４：１０　休憩

１４：１０～１５：３０　第１回運営指導委員会

第２回運営指導委員会

日時　　令和２年２月１４日（金）

１３：０５～１３：５５（５限目）　公開授業（１・２年総合）

１３：５５～１４：１０　休憩

１４：１０～１５：３０　第２回運営指導委員会

議事録

令和元年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第１回　運営指導委員会　　議事録

１　日　時　令和元年１１月１２日（火）　　１４：１０　～　１５：３０
２　場　所　鯖江高等学校　視聴覚室
３　参加者　佐川 哲也　　金沢大学地域創造学類長
田中 謙次　　福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
宮本 昌彦　　鯖江市産業環境部長
丸山 繁喜　　鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬　　鯖江市社会福祉協議会 会長
油谷 泉　　福井県教育庁高校教育課 課長
濵田 敏功　　福井県教育庁高校教育課 参事
高芝 和紀　　福井県教育庁高校教育課 企画主査
福嶋 洋之　　校長
浅野 裕治　　教頭
渡辺 康仁　　教務部長
中山 孝士　　進路指導部長
山田 雅彦　　地域協働推進事務局長
山田 繁　　地域協働推進事務局員
千葉 章代　　地域協働推進事務局 書記

４　内容

（１）校長挨拶
文科省が新しく打ち出した教育改革推進事業のもと，地域の地域による地域のための高等学校作りに今年度より取り組み始めた。
実績があり活動が想像できるものとは異なり，当初心配ばかりが募るものであったが，鯖江市，鯖江商工会議所の全面的バックアップのもと活動を展開することができた。お礼申し上げる。
運営指導委員の方にはさまざまな角度からご指導ご助言を頂きたい。

（２）県教育委員会挨拶
福井県では丸岡高校のグローカル型と鯖江高校の地域魅力化型の２校が文科省より指定を受けた中で，他学校のモデルとなり県全体の教育が進んでいく事に期待している。
キーワード「地域協働」を核にした３ヶ年のカリキュラム開発が，持続可能である事が大切。色々なご意見を頂き今後の活動推進に役立てていきたい。

（３）出席者紹介

（４）概要報告

・これまでの取組について

・今後の予定について

・次年度以降について

（５）運営指導委員からの指導・助言

〈佐川氏〉

地域の色々な分野から意見等を貰える仕組み作りが構築されていて素晴らしい。

生徒が地域に貢献できる事が増えていく事に大変期待している。

学校としての成果は見えてくると思われるが，生徒一人ひとりにどんな風にプラスに繋がるか考える必要がある。

高校生が地域の中でどのような存在･役割を果たしているのか，生徒一人ひとりが考え理解し行動していける事が望ましい。

学校の取組みの発信について。例えばユネスコスクール登録にチャレンジする等，取組・目標を持続的に保てると良い。

〈田中氏〉

生徒達には地域企業は解り難い部分があると思われるが，その膨大な数の地域企業が福井の経済を支えている。福井経済の基盤である地域経営･地域企業の発掘･掘り起こしをする事によって地域魅力化が望める。

既存業種の磨き上げも大事だが，破壊的なイノベーションに到達すべく，伝統産業等の福井に来なければできない事を追求し，身近な事を知る事から始める事が大事である。

翻訳家として先生方が地域を熟知する事が重要である。

〈宮本氏〉

今後も鯖江市出前講座などを役立てて貰いたい。

日本人のみの交流・日本内部だけでの活動では，自己肯定率の上昇は難しい。

地域課題を取上げた時，企業の問題や商店街の問題に目が行きがちだが，LGBT 等の人権的な事にも今後地域課題として目を向けるべきだと考える。

〈丸山氏〉

生徒たちが落ち着いて良い表情で授業に取組んでいて大変良かった。

体操や駅伝･吹奏楽など，よく頑張っていて素晴らしい。

中学での取組が高校での取組みに繋がる，中学･高校の接続により益々魅力ある学校作りになるのではないか。

一旦県外に出てもまた故郷福井に戻って来る事を願う。

〈齋藤氏〉

授業ではプロジェクターに日が射して見難かった。ブラインドやカーテン設置の要請をしてはどうか。

生徒達の消極的な所が見受けられた。積極性を育て，ディスカッション思考を高めるべきと考える。

鯖江だけを地域と捉えて良いか？福井県を地域と捉えるか？

希望大学に入る事も大切，そして世界で飛躍出来る実力ある人材が地元に帰って活躍する事が大切であろう。その為には偏差値だけではなく，総合的な人格形成・世界に羽ばたく人材を育てる事が極めて重要である。

県内企業の求人情報・状況等をタイミングよく全国各大学等に発信し，人材確保の努力を。指導力や研究能力には人間を育てる色々な側面をもち，その総合的な力が地元を支え，日本を支え，世界を支えている。

〈油谷氏〉

高校魅力化アンケートは初年度データとして大変重要。今後さらに分析していく中で地域魅力化に生かせる。

数字の低いウィークポイントに目を向けると，いかに外に生徒を出すか？が要になる。

地域の課題に取組む時に，インターネットで調べて解決させるのではなく，実際地域に出て生きた話しを聞き，自分たちで考え挫折も味わう事でワンランクアップが狙える。

この様なフィールドワークにより，色々な立場･視点の意見を聞き，高校生の視点でどの様にアプローチしていくかを熟考していく術を身につけることができるのではないか。

地域の人とのネットワークが日常的になると，生徒の探究心も深まり研究が更に進む。

学校自体が生徒の活動や変容を評価していく事が大切である。

（６）学校再編について〈教頭〉

令和２年度より「探究科」「普通科スタンダードクラス」「普通科スポーツ･健康福祉コース」「普通科 IT･デザインコース」でスタートする。

〈宮本氏〉

Q.カリキュラムは生徒の意見を取入れるのか？

A.先ずはカリキュラム作りを本校の取組としてまとめ，他県他校に発信していけるものにしていきたい。

Q.鯖江市 JK 課企画の全国高校生まちづくりサミットの中で，生徒自分達自身で問題提起･解決に取組み発信する事で，自己肯定感･他人を思いやる気持ちが培われていくと感じた。

A.今後総合的な探究時間の中で，自分達が疑問に感じた事等を探究していく時間が増えていく見込である。

〈丸山氏〉

Q.武生高校･藤島高校の定員増や私立高校の無償化に伴い，鯖江高校の展望は？

A.〈油谷氏〉定員は進路指導調査等の結果を踏まえキャパシティなども含め考察，県としては新しくスタートする鯖江高校に大いに期待している。

〈田中氏〉

山形県鶴岡市の慶応大学先端生命科学研究所では，地元の高校生が大学の研究を手伝うという体験の中で慶応大学を目指す様になる，そして後々慶応大学卒業後に，この研究所に戻って来るという図式ができている。

中学生の職業体験では，中学生が出したアイディアを実際に採用する時，本気で取り組む子ども達の目はキラキラと輝きよりよいアイディアが出てくる。大人も本気･子どもも本気になる事から生まれてくる物は絶大である。

デンマークでは，小学生と議員が普通にコミュニケーションを取る。小学生と議員の関係性が子どもの頃からできている。大人と子どもが本気で討論出来る様な社会作り･学校作りを目指してほしい。

〈齋藤氏〉

社会も学校も時代とともに変わってきた。今後鯖江高校が素晴らしい学校へと変わっていく事に期待したい。

進路指導先生の影響で生徒の進路が変わった事実もある様に，先生の影響力は甚大，聖職と言われる所以。今後の先生方の活躍に期待する。

（７）その他

・令和２年２月ごろに第２回運営指導委員会を開催予定

５　閉会挨拶

令和元年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第２回　運営指導委員会　議事録

１　日　時　令和２年２月１４日（金）　　１４：１０　～　１５：３０

２　場　所　鯖江高等学校　視聴覚室

３　参加者　（欠）佐川 哲也　金沢大学地域創造学類長
田中 謙次　福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
宮本 昌彦　鯖江市産業環境部長
（欠）丸山 繁喜　鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬　鯖江市社会福祉協議会 会長
山本 泰弘　福井県教育庁 高校教育課 参事
高柴 和紀　福井県教育庁 高校教育課 企画主査
福嶋 洋之　校長
浅野 裕治　教頭
渡辺 康仁　教務部長
中山 孝士　進路指導部長
山田 雅彦　地域協働推進事務局長
山田 繁　地域協働推進事務局員
千葉 章代　地域協働推進事務局 書記

４　内容

（１）校長挨拶

今年度一年間にわたり，鯖江市・鯖江商工会議所との連携協定をもとに，校外講師の授業や，校外へ出てのさまざまな活動・発表をすることができた。地域から協力をいただくことで，教育活動が校内で完結することなく，新たな学びにつながっていると感じる。

生徒がそれまで漫然と感じていた地元鯖江市・越前市・丹南地区について，改めて色々な活動や人を知ることができている。生徒自身がこれまで以上に地元とのつながりを実感し，さらに興味をもつことができたらありがたい。本校の学び方等を，さまざまな形で県内・全国に発信していきたい。

丹南地区の高等学校再編事業がいよいよ今春スタートする。地域協働事業を，新しい全学科・全コース・全専攻で，今まで以上に充実させていきたい。地域との協働によって，新たなカリキュラム開発を目指していく所存である。委員の皆様より，ご指導ご助言をいただきたい。

（２）県教育委員会挨拶

委員の皆様や先生方の，事業への積極的な取組に感謝する。

第１回運営指導委員会での，委員の皆様からの貴重なご意見を受けて，地域ならではの新しい価値を創造し，地域を支える人材育成に向けて，地元企業等と連携したカリキュラム開発・研究開発に取り組んでいる。今後の更なる研究成果に多いに期待する。第１回に続き，

ご指導・ご助言，忌憚のないご意見をいただきたい。新しく生まれ変わる鯖江高校の研究開発が一層充実することを祈念する。

（３）概要報告

・これまでの取組について

第１回運営指導委員会後の音楽特別授業や数学特別授業，さまざまな取組について報告。

鯖江高校・鯖江市・鯖江商工会議所の連絡協議会を学期に一回開催。12 月の第二回連絡協議会の中で，

活動の内容を保護者や地域の方々へ PR していくと良いのでは？　PR 方法を検討すべき

生徒の声を聴く機会を設定すべき

生徒の自主性を育む授業を目指すべき　　・・・　　貴重なご意見をいただいた。

・次年度に向けて

新鯖江高校スタートに向けて，多様な学科・コースの特色に応じた更なる地域協働事業の展開が必要である。

令和２年度入学新１年生の，各学科・専攻・コースの３年間の流れについて，各教科にとどまらず，教科をまたいだ授業を計画している。

教員研修会を充実していくなかで，年度の早い時期に研修会を設定することで，教員が共通理解のもとスタートができるようにと考えている。

（４）運営指導委員からの指導・助言

〈田中氏〉

総じてとても良いと感じた。

地域協働を来年度は全ての教科で絡めるというのは非常に重要なポイントであろう。進学校も職業系の学校も，どこも授業時間が少ないため，表面的な部分を流すにとどまり，最終的な局面でありきたりな結論に陥りがちである。全ての教科で関わりをもつことで，この問題が少し解消されるのではないかと期待する。

今日の授業を見て“伝わる”プレゼンには程遠いと感じた。発表する方も聞く方も，相手を見ないため，コミュニケーションが生まれずとても残念であった。たった一人，紙を持たずに自分の言葉で喋った生徒のプレゼンは相手に伝わったと感じた，それがとても大事である。

高校に入って，いきなり地域について考える，いきなり自分の意見を伝える，というのは難しい。幼少期から地域の多様な方と触れ合い，多様な考え方を認める経験を重ねることで，小学生・中学生と自分の考え方のベースができ，地域でどんな問題があるのかを自然と意識する。それをもって，高校で具体的な形にするというのが，10 年先を見据えた時に大切になる。

田舎の高校だからこそできる尖った教育システムに挑戦することで，東京から引っ越してでも福井の教育を学ばせたい！と評価される学校となる。

地域を知るということは，地域の問題を知るということ。常に当事者意識をもって，更に更に地域の問題を出していく必要がある。

地域の多くの課題に，ガッツある高校生が本気で取り組むことで，魅力ある地域になっていく。

教員研修会は，教員内だけでなく，それぞれが色々な業界の研修会に参加する等して，そしてもち寄ったものを議論していくと，またより充実したものとなる。

〈宮本氏〉

Q.地域協働ニュースはどの様に活用しているのか？

A.地域協働ニュースと，現在作成中の広報誌を，今後保護者や市内中学に配布したり，鯖江市役所・鯖江商工会議所に置かせていただけたらと考えている。活動を鯖江高校ホームページにもアップしているが，更なるPRが必要である。

〈宮本氏〉

活動をホームページにアップしたり，地域協働ニュース・広報誌を，保護者や市内中学に配るのは良いPRになる。

福井銀行の数学特別授業のような，生徒が自分の将来に役立つと感じ，興味関心をもったことがらについての学びは身につく。学びたい欲求を引き出すことが大事であろう。

生徒のフィールドワークに加え，先生方にも地域に出て行ってもらって，福井大学や商工会議所などさまざまな方に協力いただきながら，地域の色々な課題や課題解決を知っていってもらいたい。

(地域協働ニュース・広報誌を，鯖江市役所に置かせていただくことに快諾いただいた)

〈齋藤氏〉

今日の授業を見て，自分の意見を発表する姿勢ができてなくて残念であった。

発表者の緩慢な態度や小さな声など，基本的なことができていない。当然指導されるべきところが指導されてないことに違和感がある。

福井県では，福井新聞が絶対的という側面があり，ものごとの多様性の理解に欠ける恐れがある。複数の新聞を並べてさまざまな意見を比べ，ものごとの多様性を理解した上で生徒が各々の意見をもつべきではないか。

批判精神を教えることは，教育の根幹。新聞一紙では誘導記事に騙されがちで，批判精神も生まれない。福井県では新聞を授業に取り入れることは難しい。

発表をしたら相手の意見を求める姿勢をもつ，批判を浴びる覚悟をもつ。反論がなければ討論にならない。

作文の起承転結は教えられても，論文形式が教えられていない。国語教育における今後の課題であろう。

地域だけを学んでも地域を理解することはできない。他地域を知ることで，地域が位置づけられる。

〈山本氏〉

専門的なことを教わることができていてありがたい。市役所や商工会議所・企業の方に鯖江高校に入っていただき，生徒の刺激になっていて素晴らしい。次はどうやって地域に出ていくかが課題である。

地域の課題に取り組むときに，ネットで調べたことを鵜呑みにして解決をしていては一面的な部分しか見えてこない。多面的な部分は実際地域に出ないと分からない。

地域に出て，地域の課題を見付けるときに，生徒自身が興味関心をもつことが大切である。先生が課題を与えるのではなく，生徒自身が好きなことに取り組ませる。地域の課題を自分の課題と捉えることで，本気になって取り組むことができる。

全ての教科を絡めた授業改革は大変素晴らしい。

先生や生徒が話しているときに，聞いていない生徒が目立つ。しっかり相手の話しを聞くという授業改善で，プレゼン力・質問力は上がる。

実感して課題に取り組み，鯖江高校独自のものをつくりあげる。世界に繋がっているという意識をもって地域探究を行うことで，鯖江高校がより強みをもつことができる。

〈田中氏〉

大学や企業・社会が求める人物像に「ならないといけない」という受動的な姿勢ではなく，「求める人物像に自分がマッチングし，更にそれを超えていく!」というアグリッシブさをもって貰いたい。

企業の面接で，企業が求める人物像になりきって面接を受け，社会に出てから問題が起きるということは多々起きている。

自分をごり押しするのではなく，周りの人と関わり合いをもちながらお互いを認め合い，自分を成長させていくことが大切である。大学や企業・社会が求める人物像に寄っていく必要はない。

〈地域協働〉

新年度より，総合的な探究の時間の中で，グループや個人の興味・関心に沿った探究活動を行っていく。校外に出て行ったり，色々な方に依頼をして学校に来ていただき，フィールドワークを通して色々な方と関わり合いをもちながら探究学習を深めていく。

〈田中氏〉

Q.部活動をしていない生徒等に，年間インターンシップをさせてはどうか？

地元の企業で自分探しをする。自分は必要とされていると感じる中で達成感を共有し，年間を通して一貫性が出てくる。さまざまな問題に直面した時に本気で取り組むことができる。

A.地域事業主わどうさんより，生徒と一年間一緒に考えたりする活動が何かできたらと，お話しをいただいている。実現に向けて検討していく。

〈山本氏〉

生徒が成功体験・失敗体験を重ねて変容していく中で，自分の評価をどうしていくか，自己肯定感をどう上げていくかが大切である。自分が成長したと感じられるものが必要である。

（５）その他

・令和２年度運営指導委員会　第１回　１０月

第２回　　２月　開催予定

その他の取組

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道 への参加

令和元年９月 10 日，11 日に実施された「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道に，本校から２年生３名が参加した。この大会は太平洋沿岸の国々を中心に日本を含む世界 44 ヶ国の高校生が一堂に会し，津波や地震などの災害に備える意識の向上のため，高校生に何ができるかについて話し合うイベントで，ディスカッションを含むすべてが英語で進行された。本校から参加した生徒は，前年度に地域の防災について探究してきたことをもとにして，海外の高校生と意見を交わし，自分たちの探究してきたことがさらに深められただけではなく，様々な人たちと交流の輪を広げることができた。

（参照　資料 地域協働ニュース第４号）

課題解決型学習発表会への参加

本校は，福井県教育委員会・福井県教育総合研究所が行っている「課題解決型学習モデル開発事業」のモデル校となっており，地域協働での活動と絡めながら取り組んできた。令和２年２月１１日に実施された成果発表会に，本校から１年生１グループ，２年生１グループが参加し，ポスター発表を行った。

マスコミの取材状況

〇令和元年６月１３日（木）　鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所の相互連携協定締結
- 株式会社福井新聞社
- 日刊県民福井
- 福井テレビジョン放送株式会社
- 福井放送株式会社（ＦＢＣテレビ）
- 丹南ケーブルテレビ株式会社

〇令和元年７月３１日（水）　クッキング部が地元野菜の吉川ナスを使ったレシピを発表
- 丹南ケーブルテレビ株式会社

〇令和元年１０月３０日（水）　福井新聞社による新聞記事特別講座
- 株式会社福井新聞社

〇令和元年１２月８日（日）　誠市での民族音楽の発表
- 丹南ケーブルテレビ株式会社

〇令和２年１月２８日（火）　数学　特別授業
- ＮＨＫ福井放送局
- 丹南ケーブルテレビ株式会社